



写真：10・18第二波法大包围デモ

●10・18法大デモ貫徹！

10月18日、「原発反対！弾圧職員追放！フクシマ連帯！」を掲げて法大デモを打ち抜きました！ この10月は「福島連帯月間」として全国の大学で行動が取り組まれ、特に17～18日にかけては京大、東北大、広島大、富山大で福島で活動をされている方々をお招きして「福島の生の声を聞こう」という企画が行われました。法政でも、18日はデモを打ち抜いただけでなく、同様の企画を行いました(右図参照)。

●福島の現実私たちの現実だ！

法政大学では、富士見校舎中庭の植え込みから毎時0.65マイクロシーベルトという放射線管理区域に相当するホットスポットが観測されたにもかかわらず、大学は「日常生活に影響はない」として学生を被曝させつづけています。福島への棄民政策は、私たちにも適用されているのです。彼らの利権構造が維持され続けるために学生が被曝され続けるなど絶対に許してはなりません。これから学祭も始まり、多くの方が法政にやってきます。こんなことで私たちの学祭を汚されないために、絶対に除染をさせなければなりません。

この現実を打ち破るために、福島大生と連帯して、10・21福島大学現地闘争へ行こう(詳細裏面)！



○10・18「福島とつながる学生集会」での佐藤幸子さん(子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク)の講演(抜粋)

・「これほどまでに子供の命を守らない国はない」

・「市は除染をやらせてくださいと言うばかりで子どもを避難させようとは一切言わない」

・「福島はチェルノブイリの強制避難区域と同じところにいまだに住んでいる」

・「医師ほど危険なことを知っている。どんどん医師は逃げており、これから確実に医師は不足する」

・「これからは考え方を変えなければ生きていけない時代になった」

・「過去のこととは一回ご破算にしてもらいたい。多くの人が変わったのだから、みんなで一緒に行動しよう」



10・1 京大デモ(左)、10・6 第一波法大デモ(右)



全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

TEL 050-3036-6464 mail_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp/

福島から大学を問う

10・21全国学生集会

講演：豊島耕一さん
(佐賀大学理工学部教授)

「福島原発事故と大学人の責任」

【主催】10・21福島大集会実行委員会

【呼びかけ】豊島耕一(佐賀大学教授)／斎藤郁真(全学連委員長・法政大学文化連盟委員長)／福島大生有志

連絡先 090-9374-8276 furukori@ezweb.ne.jp(古郡)

●政府の原発推進政策を打ち砕こう！

野田政権は、9月22日に国連で「原発の安全性を世界最高水準に高める」(震災前からそういう前提ではなかったのか!)と述べ、「原発の再稼働」を世界に向かって宣言しました。そのために政府は放射線の年間許容限度を20ミリシーベルトまで引き上げることを狙い、「放射能は安全だ」という世論をつくろうとしています。大学はこの世論誘導の最先頭に立ち、「科学的」な根拠を御用学者によって保障させています。野田政権の原発再稼働政策を打ち砕く決定的なカギを握っているのは私たち学生です。原発によってすべてを奪われたフクシマの怒りは学生の闘いを求めています。大学から御用学者や、学生の声を抑える弾圧職員を叩き出そう！

●10・21福島大学現地行動へ！

次はいよいよ福島大学での全国学生集会です。3・11後、福島大学は「日本原子力研究開発機構」(JAEA)という日本屈指の原子力推進機関と提携を行い、御用学者が「原発安全キャンペーン」に代わって作りだした「放射能安全キャンペーン」の最先頭に立ち、学内のホットスポットを放置してるのです。一方で、原発反対を訴える学内集会を禁止し、教室の使用許可を取り消すなど暴挙に出始めています。

この福島大学のあり方は、法政大学と同じです。法大は、市ヶ谷キャンパス内に毎時0.65マイクロシーベルトという放射線管理区域に相当するホットスポット(高濃度放射能地点)が観測されたにもかかわらず、「日常生活に影響ない」として放置し、学生を被曝させています。これから学祭もあり、早急に除染させなければなりません。

10月21日は全国の大学から学生が福島大学に集まり、福島大生と共に腐敗した大学のあり方に声をあげます。福島大学の一年生は「人の命を軽視し、目先の経済活動の事だ

けを考え、原発を正当化する考えを植え付けるような教育は受けたくはありません。共に私たちに理不尽な考えを押しつけようとする大学、人々の未来を奪う政策と闘いましょう」と訴えています。この声に応え、法大生こそ福島大学に集まろう！

●わたしたちが立ち上がれば社会は変えられる！

今、世界に目を向ければ反乱だらけです。アメリカのウォール街のデモは全世界に拡大し、10月15日には日本を含む80以上の国で同時に「私たちは99%だ」のスローガンを掲げてデモが行われました。日本では、9月19日に「原発再稼働阻止」を掲げて6万人の人々が明治公園を埋め尽くすことも始まっています。「たった1%の人間のための経済・社会のあり方を変えよう」という思いは反原発運動もウォール街のデモも共通です。「経済」のために原発、「経済」のためにリストラ、「経済」のために非正規雇用、「経済」のために銀行救済・・・こんなことはもうたくさんだ！そういう思いが社会に満ち溢れています。私たちの行動で社会を動かすことはできる。ついに稼働中の原発は残すところあと10基となりました。野田政権の企図を打ち砕き、原発を廃止するにはあと一步のみんなの行動が必要です。

●社会を根本から変える11・6集会へ！

11月6日、日比谷野外音楽堂で世界中で闘う運動を魅らせ、社会を根本から変えることを訴えて集会が開かれます。労働者・学生・農民・医者・弁護士など、多くの闘う運動体が総結集する大集会です。アメリカ・ドイツ・韓国など、海外からも多数の参加を受けて行われる全世界一斉行動でもあります。全世界に私たち「99%」のために闘う組織・運動を魅らせる11・6集会にすべての学生は集まろう！

11/6

もう黙ってられない！ 今こそ声をあげよう！！ 反原発一万人大デモへ！！

11月6日(日) 正午@東京日比谷野外音楽堂 (10:00～前段企画として、青年学生反原発大集会)